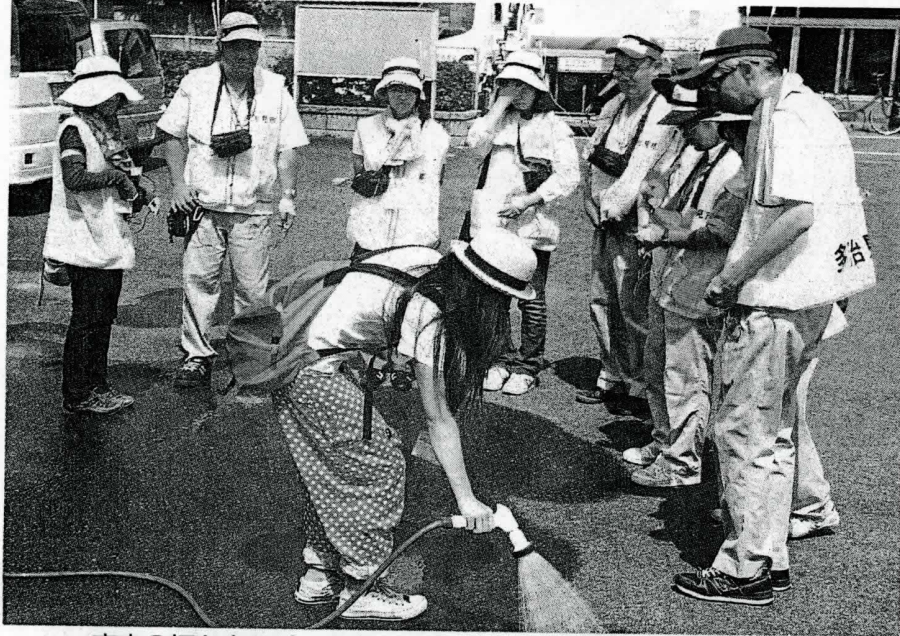


暑さの健康への影響は？



市内の打ち水スポットで、路面温度と皮膚温度の変化について調べる関係者—多治見市白山町

多治見市と東京工大が調査開始

4年前に日本一暑い街となった多治見市は22日、東京工業大学と共同で、暑さが人間の健康に与える影響について調査を開始した。各種センサーを身に付けた市民に、市内を歩いてもいい、気温や皮膚温度の関係について調べる。集められたデータは今後の都市計画に生かしていく方針。（藤田聡）

市民協力 市内歩き皮膚温度の変化測定

博士課程の仲吉信人さんは「熱中症や日射病の前兆も解明できれば、将来的には

この調査は、東工大の神田学教授の研究室が全国で初めて実施する「温熱生理調査」で、あす以降は、20代と50代以上の市民を対象に調査を実施、計30人が参加し、データを収集する。

午後1時には、市内の駐車場に設定した「打ち水スポット」に立ち寄り、路面温度と皮膚温度の変化についてもサーモカメラで測定した。

午後1時には、市内の駐車場に設定した「打ち水スポット」に立ち寄り、路面温度と皮膚温度の変化についてもサーモカメラで測定した。

初日は、30代から40代の市民9人が参加。気温、湿度、風速、日射量を測る気象センサーを設置した帽子をかぶり、体には皮膚温度や脈拍などを測るセンサーを身に付けて、朝、昼、晩と1日3回、市内を歩いた。

快適な街づくりのデータとして生かしたい」と話している。